



葛尾村 村制施行100周年記念

葛尾村の歩み



自然 人 温もりをむすぶ 結いのむら かつらお

村民憲章

1. 自然を愛し、心のふれあう、平和な村にしましょう。
1. みんなで助け合い、明るく、なごやかな村にしましょう。
1. 決まりを守り、住みよい村にしましょう。
1. 仕事に誇りをもち、元気で働き、豊かな村にしましょう。
1. 教養と文化を高め、希望に輝く村にしましょう。

目次

1. ごあいさつ

葛尾村長からの挨拶	3
-----------------	---

2. 祝辞

福島県知事からのご祝辞	4
葛尾村議会議長からのご祝辞	5

3. 村の歩みと歴史

葛尾村100年の歩み	6
村の歴史と文化	10
葛尾村歴代村長・議会議長	12
葛尾村歴代村長・議会議長からのお祝いの言葉	14

4. 葛尾村の今とこれから

村の概要	16
次の100年へ	18

ごあいさつ

東日本大震災と原子力発電所事故により、全村民が「ふるさとかつらお」を離れることとなりましたが、営農や商店の再開、そして学校の再開など復興が進み、今こうして「ふるさとかつらお」へ戻り、新しい時代の村づくりを進めることができますのも、これまでに国内外の多くの皆さまより賜りました多大なる心温まるご支援によるものであり、重ねて厚く感謝申し上げます。

村制施行 100 年の歴史は、大正・昭和・平成から令和へ 20 世紀から 21 世紀へと変わり、それぞれの時代の幾多の困難を乗り越え、この記念となる年を迎えました。先人が培ってきた大切な歴史に思いをはせ、それぞれの時代を懸命な努力により創り上げてこられた先人のご尽力に対し心より敬意を表し、「ふるさとかつらお」の復興・再生と末永い発展をお誓いするものであります。今年は、第五次葛尾村振興計画のスタートの年でもあります。「自然人 温もりをむすぶ 結いのむら かつらお」を村の将来像として、「自然と共存するむら」「支え合い・助け合うむら」など 5 つの基本目標を柱に引き続き持続可能な村づくりを着実に推進してまいります。

現在、村内には、農業用倉庫や水稻育苗施設などの整備が進み、県道 50 号線沿いには切れ目なく稲作が再開され、「ふるさとかつらお」の里山風景が戻りつつあります。その風景を後ろに「ツール・ド・かつらお」、秋には大なべや新そばを振る舞う「かつらお感謝祭」などが開催されています。引き続き村民のコミュニティの再生や住民帰還の促進、村資源の P R を図りつつ、交流・関係人口の拡大から移住・定住人口の増加に繋げ、将来にわたって活力ある村づくりに取り組んでまいります。

この記念すべき日に、皆さまとともに、村民の皆さまとの絆をより一層深め、国内外の皆様からご支援に応えるべく、更なる復興・再生の取り組みの決意を新たにします。新しい時代の村づくりに向け、力強い一歩を踏み出し邁進することをお誓い申し上げます。

村民の皆さまならびに皆さまより賜りましたご理解とご協力、ご支援に対し心より感謝を申し上げ、村制施行 100 周年を迎えてのあいさつといたします。

葛尾村長

篠木 弘



ご祝辞



福島県知事 内堀 雅雄 様

このたび、葛尾村が村制施行 100 周年を迎えられますことを、心からお喜び申し上げます。

葛尾村は、大正 12 年に津島葛尾組合村から分村して以来、相互扶助の精神である「結」の文化と、豊かな自然を大切に育みながら、農林畜産業を中心に発展してこられました。

しかし、平成 23 年 3 月の未曾有の複合災害により、全村避難を余儀なくされ、当たり前にあった穏やかな日常など、多くのものが失われてしまいました。

そのような中、村民の皆様の懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、昨年 6 月には野行地区における特定復興再生拠点区域の避難指示が解除され、復興に向けた新たな一歩を踏み出されました。

また現在は、畜産振興に向けた肥育素牛生産施設の整備や最高級胡蝶蘭「ホープホワイト」の生産に加え、バナメイエビの陸上養殖事業に取り組まれるなど、活力ある村の創造に向けて果敢に挑戦を続けておられます。

これもひとえに、村民の皆様を始め、村当局と村議会が一体となり、ふるさとの復興・再生のため、御尽力されてきた賜であり、心から敬意を表します。

皆様におかれましては、村制施行 100 周年を更なる復興への契機として、村の将来像に掲げる「自然 人 温もりをむすぶ 結いのむら かつらお」の実現に向け、力強く歩みを進められますことを御期待申し上げます。

結びに、葛尾村のますますの発展と、村民の皆様の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

ご祝辞



葛尾村議会議長

吉田 義則 様

葛尾村が村制 100 周年を迎える輝かしい節目に、議会を代表して心からお祝いを申し上げます。

本村が、大正 12 年の村制発足から 100 年という長きに渡り立派に引き継がれてきたのは、偏に諸先輩方の弛まぬ努力の賜に他ならないと思っております。

この 100 年は、多くの村民が想像を絶する戦禍を被ったり、東日本大震災と原子力発電所事故では全村避難を経験するなど、まさに激動の 100 年だったと思います。

また、産業面でも現代のような技術がない時代から、自然環境の厳しい本村で、真に骨身を惜しまず農林畜産業の振興に取り組んでこられたそのご苦労は計り知れないものだと思います。

これまで本村を支えて来られました、多くの皆さまに衷心より敬意を表し、我々も、幾多の困難を不断の努力で乗り越えてこられた偉大な諸先輩方に恥じぬよう、大切な伝統文化を守りながら、よりよい村づくりに邁進してまいる所存です。

議会と致しましても、次の 100 年に向け全村民が健康で希望を持って暮らし、胸を張って「葛尾はすばらしい村だ」と言えるような村を作るための努力を惜しみませんので、議会に対しましてこれまでと同様に皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東日本大震災からの復興をはじめ、これまで本村を支援応援頂きました全ての方々に心からの感謝を申し上げ、葛尾村のますますの発展と、村民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、祝辞といたします。

葛尾村 百年の歩み

大正12年～昭和64年

日本・世界の歴史

昭和44年
● 葛尾歯科診療所が開設

● 葛尾村へき地保育所が設置

昭和43年
● 葛尾小学校校舎が完成

昭和30年
● 村の人口が三千人を突破

昭和29年
● 日本軽種馬協会葛尾軽種馬場が開所

昭和28年
● 葛尾～浪江間の国鉄バス路線が運行を開始

● 旧葛尾中学校校舎が完成

昭和26年
● 葛尾小学校大放分校が設置

昭和25年
● 葛尾小学校風越分校が設置

昭和11年
● 旧葛尾小学校校舎が完成

大正14年
● 村で葉たばこの生産が開始

大正12年
● 津島・葛尾組合村が解消され、双葉郡葛尾村となる



葉たばこの生産



国鉄バス運行



旧葛尾中学校（昭和 26 年）



村内で飼育される馬



開所当時の葛尾診療所（昭和47年）

1923
(大正12年)

1969
(昭和44年)

大正12年
関東大震災が発生

昭和11年
大規模クーデター（二・二六事件）が発生

昭和15年
日独伊三国軍事同盟が成立

昭和16年
太平洋戦争が始まる

昭和20年
広島・長崎に原爆が投下される

第二次世界大戦の終結

昭和22年
日本国憲法が施行される

昭和23年
終戦後初のオリンピックが開催

昭和26年
第1回NHK紅白歌合戦が放送される

昭和30年
白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫が普及

昭和39年
東京オリンピックが開催

昭和44年
アポロ11号が月面着陸に成功

昭和63年
● 葛尾村健康増進センターが完成

● 湯口地区ほ場整備事業が竣工

昭和60年
● 現在の葛尾中学校校舎が完成

● 小坂地区ほ場整備事業が竣工

昭和59年
● 交通死亡事故ゼロ日本一の村となる（七千日達成）

昭和57年
● 浪江消防署葛尾分遣所が開設

● 村を南北に縦断する道路が国道399号として認定

昭和56年
● 葛尾村村民憲章が制定

● 夏の大冷害、冬の豪雪により大きな被害を受ける

● 『広報かつらお』創刊号が発刊

昭和55年
● 葛尾村役場庁舎が完成

昭和53年
● 野行地区ほ場整備事業が竣工

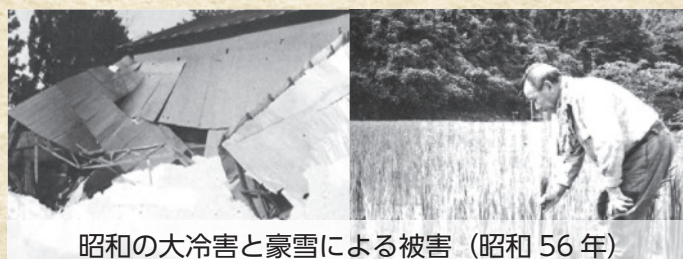
昭和52年
● 村章及び、村の木・花・鳥が制定

昭和50年
● 葛尾村立葛尾幼稚園が開園

昭和47年
● 葛尾診療所が開設



幼稚園入園式（昭和50年）



昭和の大冷害と豪雪による被害（昭和56年）



完成した健康増進センター（昭和63年）

1972
（昭和47年）

1988
（昭和63年）

昭和64年
昭和天皇崩御、元号が「平成」になる

昭和63年
青函トンネルの開通

国鉄分割民営化で「JR」が誕生する

昭和62年
バブル景気が始まる

昭和61年
ダイアナ妃が初来日する

携帯電話が登場する

昭和60年
日航ジャンボ機墜落事故

昭和58年
ドラマ「おしん」が人気になる

昭和56年
初のスペースシャトル打ち上げ

成田国際空港が開港する

昭和53年
日中平和友好条約が北京で調印される

昭和50年
第一回先進国首脳会議が開催

昭和49年
プロ野球選手の長嶋茂雄が現役引退

昭和48年
第一次オイルショック

葛尾村 百年の歩み

平成元年～令和5年

日本・世界の歴史

- 平成16年
 - 野川・上野川ほ場整備事業が竣工
 - 日本軽種馬協会葛尾軽種馬場が閉鎖
- 平成15年
 - 葛尾村宿泊交流館「せせらぎ荘」営業開始
- 落合地区の簡易水道の共用が開始
- 交通死亡事故ゼロは「一三、二六」日で途切れる
- 平成13年
 - 村内で交通死亡事故発生
- 平成12年
 - 葛尾村森林公園「もりもりランド・かつらお」オープン
- 平成10年
 - 葛尾村活性化センターが完成
- マルチメディアビレッジ事業が開始
- 全世帯にテレビ電話システムが導入
- 平成9年
 - 第一回「かつらお・自然の恵み感謝祭」が開催
- 平成8年
 - 葛尾村地域福祉センター「みどり荘」が設置
- 平成6年
 - 防災行政無線が運用開始
- 平成5年
 - 平成の大冷害による被害総額二億を超える
- 下葛尾地区ほ場整備事業が竣工
- 平成4年
 - 交通死亡事故ゼロ一万日を達成
- 平成3年
 - 葛尾村社会福祉協議会が設立
- 平成元年
 - 台風13号により、道路の崩落など大きな被害が出る

台風 13 号の被害 (平成元年)



交通死亡事故10,000日達成 (平成4年)



第1回自然の恵み感謝祭の様子 (平成9年)

1989
(平成元年)

2004
(平成16年)

- 平成17年
 - JR 福知山線脱線事故が発生
 - 「愛・地球博」が愛知で開催
- 平成14年
 - 北朝鮮拉致被害者が日本に帰国
- 愛子さま御誕生
- アメリカ同時多発テロが発生
- 平成13年
 - 20世紀から21世紀へ
- サッカー日本代表がW杯に初出場
- 長野オリンピック開催
- 平成10年
 - 映画「タイタニック」が大ヒット
- 平成7年
 - 阪神・淡路大震災が発生
- (現在の天皇・皇后両陛下)
- 徳仁皇太子・雅子さま御成婚
- 平成5年
 - ブラジルで地球サミットが開催
- 平成3年
 - ソビエト連邦が崩壊
- 平成2年
 - 東西ドイツが統一
- 平成元年
 - 消費税法施行

令和5年 村制施行百周年を迎える

令和4年 帰還困難区域の一部が避難指示解除
岸田総理が来村し、帰還困難区域の一部解除を報告

平成30年 復興交流館「あぜりあ」が完成
村内で幼稚園・小学校・中学校が再開

一部を除き村の避難指示が解除
村役場庁舎での全業務が再開

みどりの里「せせらぎ荘」が再開
三春町恵下越に復興公営住宅を整備

(現在の上皇・上皇后両陛下)

平成28年 天皇・皇后両陛下が避難先(三春町)を訪問

平成27年 役場本庁での業務が一部再開(地域振興課)
安倍総理(当時)が村民との意見交換のため訪問

平成25年 松本允秀葛尾村長(当時)がグリーンスター賞を受賞
旧要田中学校を仮校舎として小・中学校が再開

平成24年 休刊していた「広報かつらお」が復刊
村内の除染作業が開始

三春町に葛尾村三春出張所が設置
原発事故により全村避難

平成23年 東日本大震災発生と福島第一原子力発電所事故発生

平成22年 地デジ再放送システムの運用開始

平成19年 葛尾大尽屋敷跡公園が完成

広報かつらおの復刊(平成24年)



地震により崩落した法面(平成23年)

帰還困難区域(野行地区)の一部避難指示解除(令和4年)

両陛下をお迎えする村民(平成28年)

2007
(平成19年)

2023
(令和5年)

平成18年

初開催のWBCで日本が優勝
悠仁さま御誕生

平成21年

初の裁判員裁判が行われる

平成23年

東日本大震災発生
なでしこジャパンが初優勝

平成24年

東京スカイツリーの完成

平成25年

富士山が世界文化遺産に登録
経済政策「アベノミクス」が始動

平成26年

ソチ五輪で羽生結弦が金メダル獲得

平成27年

マイナンバー制度開始

平成28年

北海道新幹線が開業

令和元年

豊洲市場が開場
沖縄の首里城が火事により焼失

令和2年

新型コロナウイルスが流行

令和3年

東京2020オリンピックが開催

令和4年

ロシア軍によるウクライナ侵攻
成年年齢が十八歳に引き下げ

令和5年

大谷翔平がWBCのMVPに選出
WBCで日本が優勝

葛尾村の歴史

葛尾村は、このたび村制施行 100 周年を迎えました。

ここが「葛尾村」と名付けられる前にも、この地は多くの歴史を紡いできました。

この地に人が住んでいることが確認される最古の資料としては、村内各地から出土する縄文土器があります。

縄文時代といえは少なくとも 2000 年以上昔、そんな遙か昔からここ葛尾の地には人々が暮らしていたのです。

では、この地はいつ頃から「葛尾」になったのでしょうか。

諸説はありますが、現在最も広く信じられているのは、戦国時代、信州（現在の長野県）からこの地に移り住んだ松本勘解由介という人物が居城を偲び、この地を葛尾と名付けた、という説です。

この説を証明するかの様に、長野県坂城町に葛尾城跡という山城跡が残っています。

この葛尾城は、戦国大名村上義清の居城だったと伝えられる城で、松本勘解由介という人は、村上氏の家臣、もしくは村上氏から一度は葛尾城を奪った甲斐武田家の家臣であった、と思われます。

松本勘解由介がこの地を葛尾と名付けた、という説を裏付けるかの様に、葛尾城跡の近くには葛尾村にも同じ地名が残る「風越峠」という峠もあります。

松本勘解由介は信州から葛尾に落ち延びてきた後相馬藩に仕え、葛尾の地で製鉄や生糸などの産業を興し、「葛尾大尽」と呼ばれる大商家の祖となりました。

今回の 100 周年記念公演をはじめ、村で上演してきた能・狂言についても、江戸時代の後期、当時の松本家当主が三春藩主を招き屋敷にある池に船を浮かべ、能楽を披露した、という伝説に基づいています。ぜひ、葛尾村で能・狂言をご覧の際は、いにしえの葛尾村に想いを馳せていただければと思います。



松本勘解由介親治
（松本家家譜傳より）

葛尾村の文化財史跡

葛尾村は、明治 16 年に上野川・野川・葛尾・落合の 4 ヶ村が合併し、現在の浪江町津島と合わせ、津島・葛尾組合村となりました。

村内には、往古を偲ぶさまざまな文化財・史跡が残されています。ここでは、そのうちの一部をご紹介します。

葛尾大尽屋敷跡公園

葛尾大尽と呼ばれた松本三九郎一族の住居があった場所を、村が史跡として整備したものです。

2 度の大火により、建造物は残っていませんが、公園内には往事の隆盛を偲ばせる石垣や、近江八景を模したといわれる池などが残っています。また、薬師寺に収蔵されている大般若経 600 巻・大般若経理趣分教・涅槃像掛け軸・金剛界大日如来座像、これはいずれも松本三九郎一族が菩提寺の薬師寺に奉納したものと言われています。

金剛界大日如来座像以外は、葛尾村郷土文化保存伝習館でご覧いただけます。

葛尾大尽屋敷跡公園



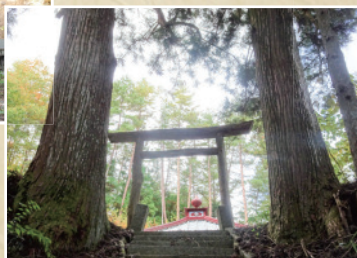
涅槃像掛け軸（左）と
金剛界大日如来座像（右）

村社 八幡神社

八幡神社（野川字仲ノ内地内）は、1245 年（寛元 3 年）から今日まで 700 年以上にわたり大字野川・上野川・落合の鎮守として、人々の信仰を集めています。



八幡神社と宇佐の杉



村社 いそごき 磯前神社

磯前神社（葛尾字関場内）は、1522 年（大永 2 年）から 500 年以上にわたり大字葛尾の鎮守として人々の信仰を集めています。

磯前神社と高御座の夫婦杉

葛尾村 歴代村長



初代
松本 忠敬

任期: 大正 12 年 6 月 29 日～
昭和 2 年 6 月 28 日



第13代
松本 寛充

任期: 昭和 39 年 5 月 10 日～
昭和 40 年 3 月 20 日



第2代
松本 石寿

任期: 昭和 2 年 6 月 29 日～
昭和 4 年 3 月 25 日



第14代
松本 政衛

任期: 昭和 40 年 5 月 2 日～
昭和 44 年 5 月 1 日



第3代
松本 喜代治

任期: 昭和 4 年 7 月 2 日～
昭和 7 年 4 月 27 日



第15代～第17代
吉田 廣義

任期: 昭和 44 年 5 月 02 日～
昭和 54 年 12 月 12 日



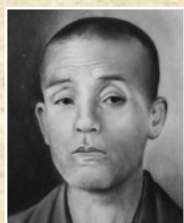
第4代・第5代
松本 忠義

任期: 昭和 7 年 6 月 5 日～
昭和 15 年 6 月 24 日



第18代
松本 正一

任期: 昭和 55 年 1 月 25 日～
昭和 55 年 10 月 6 日



第6代・第7代
松本 福一

任期: 昭和 15 年 8 月 1 日～
昭和 21 年 11 月 30 日



第19代
松本 揚

任期: 昭和 55 年 11 月 12 日～
昭和 59 年 11 月 11 日



第8代
吉田 寅之助

任期: 昭和 22 年 4 月 15 日～
昭和 24 年 3 月 3 日



第20代
松本 富雄

任期: 昭和 59 年 11 月 12 日～
昭和 63 年 11 月 11 日



第9代
石井 政記

任期: 昭和 24 年 4 月 29 日～
昭和 27 年 3 月 31 日



第21代～第27代
松本 允秀

任期: 昭和 63 年 11 月 12 日～
平成 28 年 11 月 11 日



第10代～第12代
松本 佐伯

任期: 昭和 27 年 5 月 10 日～
昭和 39 年 5 月 9 日



第28・第29代
篠木 弘(現職)

任期: 平成 28 年 11 月 12 日～

葛尾村 歴代村議会議長



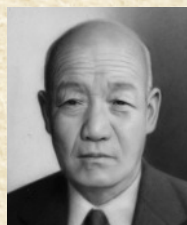
初代
佐藤 藤五郎

任期：昭和 22 年 4 月 30 日～
昭和 24 年 7 月 4 日



第10代・第11代・第12代
松本 富雄

任期：昭和 46 年 5 月 4 日～
昭和 55 年 11 月 2 日



第2代
松本 薫

任期：昭和 25 年 8 月 29 日～
昭和 26 年 4 月 29 日



第13代
松本 友福

任期：昭和 55 年 11 月 21 日～
昭和 58 年 4 月 29 日



第3代
松本 孝

任期：昭和 26 年 5 月 6 日～
昭和 30 年 4 月 29 日



第14代
松本 兵三郎

任期：昭和 58 年 5 月 6 日～
昭和 62 年 4 月 29 日



第4代・第5代
松本 陸俔

任期：昭和 30 年 4 月 30 日～
昭和 38 年 4 月 29 日



第15代～第17代
松本 幸偉

任期：昭和 62 年 5 月 1 日～
平成 11 年 4 月 29 日



第6代
松本 忠理

任期：昭和 38 年 4 月 30 日～
昭和 40 年 6 月 7 日



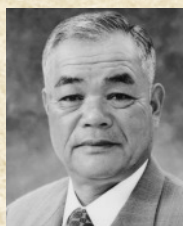
第18代・第19代・第21代
松本 政男

任期：平成 11 年 4 月 30 日～
平成 19 年 4 月 29 日



第7代
菅野 伊和吉

任期：昭和 40 年 6 月 8 日～
昭和 42 年 4 月 29 日



第20代
松本 信弘

任期：平成 19 年 4 月 30 日～
平成 20 年 9 月 17 日



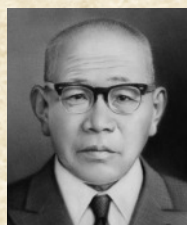
第8代
半澤 敬事

任期：昭和 42 年 4 月 30 日～
昭和 44 年 7 月 19 日



第22代・第23代
杉本 宜信

任期：平成 23 年 11 月 20 日～
令和元年 11 月 19 日



第9代
篠木 好正

任期：昭和 44 年 7 月 20 日～
昭和 46 年 4 月 29 日



第24代
吉田 義則 (現職)

任期：令和元年 11 月 20 日～



松本 允秀 様 （第 21 ～第 27 代 葛尾村長）

葛尾村村制 100 周年を祝し、心から御祝いを申し上げます。

人生 100 年と言われていますが、村がその 100 年を迎えることができたことに非常に感激しております。私が村長職を拝命したのは、昭和 63 年でした。若輩の私には、重責がのしかかり、不安でしかありませんでしたが、多くの先輩方に励まされ、助けられてなんとか前に進み始めたのを覚えております。

東日本大震災発生により福島第一原発がどうなるか先が読めないなか、私は全村民でこの村を離れる決断をしました。この避難は、高齢の方や体の不自由な方、畜産農家には本当に厳しいものであったと思い出すのもつらいものです。私はただ家族同然の村民を守るにはどうすれば良いかを考えて必死に行動をしたただけでした。次の 100 年に向け私たちには、先祖から受け継いだ貴重な財産を次の世代に繋いでいく義務があると思っております。



松本 幸偉 様 （第15～第17代 葛尾村議会議長）

村制施行 100 周年を迎えるに当たり、村民とともに喜びと
するところであります。時代の変遷により、明治 22 年 4 月に
町村制の施行により、津島葛尾組合村が組織され、大正 12 年
3 月 31 日に新生葛尾村が誕生しました。爾来、昭和・平成・令和と変動の激しい
社会情勢の中で、多くの先輩が築き上げられた足跡に思いを馳せながら、新たな
100 年に向かって技術革新を絶えず求めながら、永遠に輝かしい葛尾村のご繁栄を
心からご祈念申し上げご挨拶といたします。

お祝いの言葉



松本 政男 様（第18・19・21代 葛尾村議会議長）

葛尾村村制施行 100 周年を迎えるに当たり心からお祝いを申し上げます。村の諸先輩方が、大正からそれぞれの時代の幾多の困難を乗り越えて来られ 100 周年を迎えることができました。東日本大震災と福島第一原発事故による全村避難では、村内の田畑が荒廃し、ふるさとの風景が失われ心を痛めましたが、今はふるさとの風景が戻りつつあります。私自身は農業を生業としてきましたので、これをふるさと葛尾の形として、次の世代に繋いで行きたいと考えています。



松本 信弘 様（第 20 代 葛尾村議会議長）

葛尾村が村制施行 100 周年を迎えましたことにお祝いを申し上げますとともに、現在に至るまで本村を築き、支えてきた先人の皆様、村民の皆様、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。先の震災以降、未だ半数以上の村民が避難を余儀なくされている苦しい現状の中ではありますが、村民皆で力を合わせ、次の 100 年へ向けて以前のように活気ある村が戻ることを心より願っております。今後の葛尾村の輝かしい発展を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。



杉本 宜信 様（第 22・第 23 代 葛尾村議会議長）

葛尾村は令和5年4月1日に、村制施行 100 周年を迎えました。今日に至るまで郷土を愛し、この素晴らしい葛尾村を築いてこられた、多くの先人の皆様、そして村民の皆様、村政運営にご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

この節目を契機に、次の 100 年の輝きへ「オール葛尾」で邁進してまいりましょう。結びに、本村の発展と、皆様の益々のご隆盛を祈念いたします。



かつらおむら

葛尾村



東経 140度46分
北緯 37度30分
面積 84.37km²
海拔 470m

葛尾村の人口と避難状況

100年前の人口・世帯数

(昭和12年)

総人口
1,691 人

男性 850人
女性 841人
世帯数 200

現在の人口・世帯数

(令和5年4月1日現在)

総人口
1,297 人

男性 667人
女性 630人
世帯数 488

帰村・避難状況

(令和5年4月1日現在)

村内居住人口 463人
(内避難指示解除後の転入者数:139人)

村外居住の転入者数 24人
避難者数(県内外) 810人

村の木・花・鳥

アカマツ



ツツジ



キジ



村の名所・観光地

県立自然公園である日山(天王山)と五十人山の山頂は平坦な芝生に覆われ、山開きの日には多くの人で賑わいます。また、高瀬川溪谷の清流や季節の花々など村内で豊かな自然を感じることができるのも魅力です。また、近年はふるさと納税寄付金事業としてクリムゾンクローバーの種が蒔かれ、新たな村の観光資源となることが期待されています。

また、平成30年に完成した復興交流館「あぜりあ」では村内の事業所商品や村民手作りの工芸品等の販売や、各種イベントを開催しています。宿泊交流館「せせらぎ荘」では優しい水質のお風呂が楽しめ、村民憩いの場となっています。また、令和5年に震災の影響で休止していたキャンプ場「もりもりランド・かつらお」がグランドオープンし、多くの人々が訪れています。



村の自然と産業

阿武隈山系に位置しており、北部の日山(天王山)、南部の五十人山を始め村内の約8割を森林が占めています。豊かな自然に囲まれた葛尾村では、稲作・畜産を主体とした農業が盛んに行われており、かつては産馬・養蚕・葉たばこが広く普及していました。現在は稲作・畜産主体の農業のほか、凍みもち・各種野菜・そばやしいたけ、胡蝶蘭・酪農・畜産(羊肉・鶏肉等)に加え、産業団地の造成による工場誘致や、太陽光発電や風力発電等の再生可能エネルギーを活用した村の再生にも力を入れています。



葛尾村イメージキャラクター しみちゃん

「しみちゃん」は村と連携協定を結んでいる郡山女子大学の協力のもと生まれ、村のイメージキャラクターとして親しまれています。

村の特産品でもある凍みもちから生まれた精霊の女の子で、キャッチフレーズは「小さな村から、もちもちと。」



村の伝統芸能

村指定無形民俗文化財の「葛尾三匹獅子舞」は日山神社の例大祭と、磯前神社に舞が奉納されます。

また伝承文化財として、「神楽」や「野行の宝財踊り」が震災前は自然の恵み感謝祭等で披露されていましたが、避難による担い手不足等が原因で途絶えていました。しかし、「野行の宝財踊り」は村内事業所とふたば未来学園の有志により、令和4年に復活演舞がなされました。







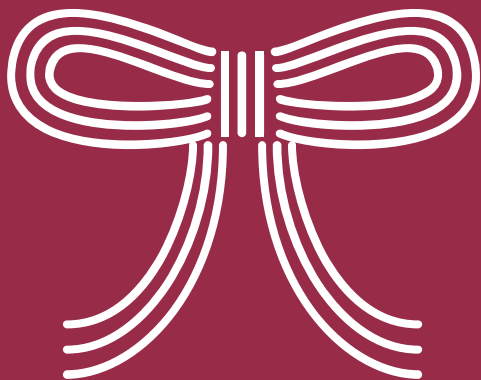
みんな 主役・みんな笑顔・みんな 家族

令和 5 年現在の総人口は約 1,300 人、その内 7 割ほどの村民は原発事故の影響により故郷を離れての生活を余儀なくされています。しかし、これまで村民の皆さんが繋いできた絆は離れていても決して消えることはありません。みんなが家族のように支え、助け合い、ひとりひとりが輝ける村を目指し、次の 100 年へと共に歩みましょう。

KATSURAO



100th ANNIVERSARY



発行日／令和 5 年 6 月

発 行／福島県葛尾村

〒979-1602

福島県双葉郡葛尾村大字落合字落合 16

TEL 0240-29-2111 FAX 0240-29-2123

編 集／葛尾村 総務課 総務企画係